

農村道路におけるロードキル多発地点の周辺土地利用の特色

Characteristic of land use around animal roadkill points in rural roads

今井敏行* 清野 亮* 関川辰夫* 服部俊宏*

IMAI Tosiyuki SEINO Ryou SEKIKAWA Tatuo HATTORI Toshihiro

はじめに

農村地域の一般的な道路において発生する野生動物の交通死亡事故（ロードキル）対策のために、限られたデータを用いてロードキル発生地点の検討を行ってきた。平成14年度には調査方法、平成16年度には多発区間周辺環境の特色について報告してきたが、本年度は日常的に野生動物と接している住民の目撃情報に基づいて多発区間周辺の野生動物の行動と土地利用上の特色との関連について検討を行ったので報告する。

調査方法

1. 調査対象路線と地域：調査対象路線は所在データの関連から里山地域を横断する国道4号線の野辺地町から十和田市街地に至る区間 29km とした。また、多発区間として七戸町の道の駅近辺の町内会を聞き取り及びアンケート調査対象地域とした。

2. 調査方法：上記区間のロードキルデータは十和田国道維持出張所より提供を頂き、その結果から多発区間を選定した。その区間に隣接する荒熊内、大沢町内会において聞き取りを行い、住民に対し野生動物目撃情報に関するアンケート調査を行った。

結果・考察

1. ロードキル多発区間：国道4号線の十和田市街地～野辺地間（ km 670-699）29kmにおいて、平成13~15年度のロードキル発生数は表-1のよう 表-1 ロードキル件数であった。タヌキが最も多く、ウサギ、カラスがこれに次いだ。

さらに、各区間毎の3年間の平均発生数を見ると十和田市北部の(671-672)区間が3件/km、七戸町の(677-678)区間3件/km、(678-679)区間の3件/kmが多い。その他の区間は1、2件で、0件は3区間にすぎなかった。そこで、年平均発生数の多い区間が連続する七戸町の(677-679)区間の2kmを多発区間として検討することとした。

なお、日常的な採餌行動で国道の横断を行う場合に加え、巣離れ期や繁殖期には日常的な行動範囲であるテリトリーを離れて行動し危険な国道を横断する場合は考えられる。そこで、ロードキル発生時期を上記国道データで見ると、タヌキはやや秋に多いが通年発生し、キツネは秋に集中、ウサギは秋冬に多い。件数の多いタヌキは日常的な行動で事故に遭遇している。

動物種	件
タヌキ	60
キツネ	6
ウサギ	16
カラス	11
リス	2
タカ	1

2. 住民による野生動物の目撃情報：七戸町の多発区間に接する町内会（荒熊内、大沢）に対し、野生動物目撃及び生息状況等についてアンケート調査を行い、その結果から目撃場所や移動方向などの状況を図-1に示した。これより、生息場所やエサ場、移動経路などの把握を行った。さらに、これら周辺区間で積雪期に足跡調査を行い、道路周辺の野生

*北里大学獣医畜産学部 School of Vet.Medicine & Animal Sci. Kitasato University

キ-ワ-ド：道路計画・整備、環境保全、環境影響評価



図 - 1 野生動物の目撃情報と移動方向（荒熊内、大沢町内会）

動物の移動経路や道路横断箇所の確認を行った。

3. 多発区間周辺の土地利用と野生動物の移動

上記目撃情報の分析結果から、多発区間周辺の土地利用と関連づけて、生息場所の森林（夏場の広葉樹林、冬場の針葉樹林）及びエサ場の農地

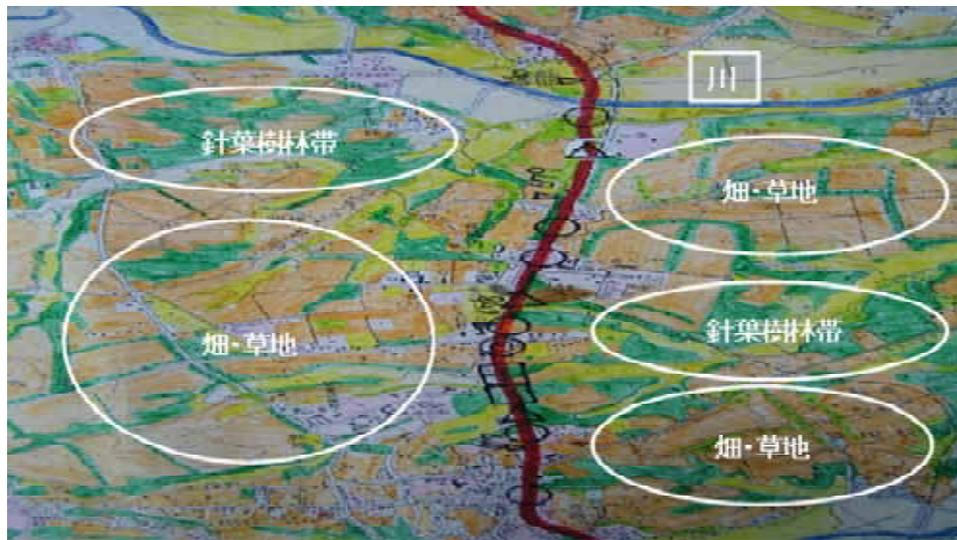


図 - 2 土地利用とロードキル発生地点（平成15年度）

（耕地、草地など）あるいは水場の間を移動する経路として国道の横断があり、ロードキルに遭遇していると考えた（図 - 2 参照）。野生動物の移動経路の分析を待って発生点を特定し、対策場所を提示したい。

．おわりに

ご協力頂いた十和田国道維持出張所、荒熊内・大沢町内会にお礼を申し上げます。